

2021年度 災研「研究交流会」の開催報告

災害科学研究所におきましては、「産官学民連携の礎」のキャッチコピーを掲げて、時代のニーズに叶う活動の多様化と活性化に取り組んでいます。その一環として、研究交流会を開催し、この約1年間の災研活動報告をするとともに、3分野の災研研究員が講演を行いました。以下に、その概要を報告いたします。

開催日時：10月6日（水）14時～17時

場 所：オンライン開催（Zoom ウェビナー）

参加者：238名

「研究交流会」の概要

1. 司会 研究員 林 健二
2. 開会挨拶 理事長 松井 保

「研究交流会」の趣旨は、研究員はじめ災研関係者の方々のみならず、広く一般の方々にも公開して、災害科学研究所の活動内容をご紹介しご理解いただき、今後の活動に対して要望、提言、アドバイスを頂くとともに、研究者・技術者の相互のコミュニケーションを図っていくことです。3年に一度の優秀研究賞は2023年度に実施予定ですが、今年の「研究交流会」では、バラエティに富む3分野の災研研究員の先生方から興味深い話題を提供いただきました。例年になく230名を超える多数の参加が全国からあり、オンライン開催のメリットが大いに感じられました。参加者の皆さんをはじめ、関係各位にお礼を申し上げます。

3. 2020年度・2021年度活動報告 企画小委員会委員長 金 裕哲

初めて参加頂いた方にも災研をご理解頂けるように、研究所の組織、定款・規定類の説明、研究所利用のインセンティブなどの紹介から、現在実施中の14研究会と連携研究の推移などが説明されるとともに、講演会やセミナーの実施状況、研究助成事業、技術評価事業、講師派遣事業などの概要を述べました。

また、東研究員より人材育成セミナー（技術士第2次試験対策セミナー、各種人材育成セミナー）の実施状況などの詳細について説明がありました。

4. 講演

- (1) 講演1：「埋設管の地盤拘束力に関する実験評価」 神戸大学 准教授 鋤田 泰子
本講演では、ライフライン等の地中構造物の耐震設計をする上で、埋設管と地盤との動的相互作用を説明する地盤ばねの設定が、地震時の埋設管応答を左右する。しかし、過去に小口径管路の地盤反力を評価した実験は数少なく、高度な数値解析を採用するにしてもその妥当性を検証するための基礎的な実験データが不足している。本講演では、神戸大学で実施している埋設管の地盤拘束力に関する実験結果とそこから地盤ばねをモデル化するまでの研究成果を紹介した。

(2) 講演 2: 「令和 2 年 7 月豪雨による球磨川流域の構造物被害について」

熊本大学 教授 松村 政秀

本講演では、令和 2 年 7 月豪雨により熊本県南部の球磨川およびその支流では、橋梁の流失・損壊、急流河川の洪水氾濫等が多数発生し、自然災害に対する備えが十分とは言えないことが改めて明確となった。球磨川流域の特徴や過去の被災と 3 つの観点で実施した構造物の被害調査から、土砂災害に伴う住宅等被害と土砂災害計画区域との関連、球磨川上流域の農地の被災と洪水緩和の試み、球磨川および支流の橋梁の被害と要因を紹介した。災害に強い社会や構造物の設計・構築に向けて、その一助となれば幸いである。

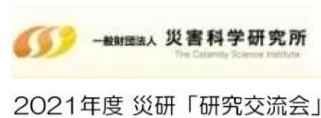
(3) 講演 3: 「スーパー台風と大津波にどう備えるかー巨大災害時代を生き抜くためにー」

大阪大学 教授 青木 伸一

切迫する南海トラフ地震や顕在化してきた地球規模の気候変動に伴う台風の大型化などにより、今後これまでの防災レベルを超える大規模な災害の発生が危惧されている。このような巨大災害から生命や財産を守るにはどうすればいいのかについて、ハード防災（施設による対策）とソフト防災（避難など自助・共助が求められる対策）の両方の視点で考えるための題材を提供した。特に、2018 年の台風 21 号による高潮災害の検証、巨大災害によって危惧される石油コンビナートなど沿岸の産業施設からの発災など、大阪湾特有の問題について紹介した。

5. 閉会挨拶

研究員 清水 文夫



開会挨拶（松井保理事長）



活動報告（金委員長）



セミナー案内（東研究員）



講演 1（鋤田泰子先生）



講演 2（松村政秀先生）



講演 3（青木伸一先生）